平成29年度　第２回松田町総合教育会議　会議録

１　開会及び閉会に関する事項

　（1） 開催日時　平成29年４月19日（水）午後３時00分

　（2） 場　　所　松田町役場４階Ａ会議室

　（3） 開会時間　午後３時00分

　（4） 閉会時間　午後４時00分

２　構成員の出席者及び欠席者の氏名

　（1） 出席者　松田町長　本山博幸

　　　　　　　　松田町教育委員会

　　　　　　　　教育長　𠮷田保夫　教育長職務代理者　安藤文一

　　　　　　　　委員　二宮朗子　委員　杉本葉子　委員　石川純一

　　　　　　　　（事務局関係）

　　　　　　　　教育課長　遠藤洋一　学校教育係長　宮根正行

　　　　　　　　施設管理係　渋谷昌宏

　（2） 欠席者　なし

３　傍聴人　なし

４　協議事項

　（1）松田町立中学校の統合に係る基本方針等について

５　議題及び議事の要旨

　　開会のあいさつ

（1）議事事項

　①松田町立中学校の統合に係る基本方針等について

　　内容：松田町立中学校の統合等の方法

　　１：吸収合併（寄中学校のみ閉校）

　　２：松田中学校・寄中学校両校閉校による統合

　　３：寄中学校と松田中学校を統合し、休校の状態とする

　　４：中学校を統合しないで教育的配慮による寄中学校の休校

安藤職務代理者：３番（寄中学校と松田中学校を統合し、休校の状態とする）、４番（中学校を統合しないで教育的配慮による寄中学校の休校）の休校という選択肢については、将来にあたって両校もあり得るともとることができ、地元に夢を持たせることはいいことだが、実質それは定住、定住や生徒数の増など課題があり、中途半端な気がする。両校を閉校して中学校を新設する方がいい。

石川委員：前回の会議と意見の変更はありません。結論は２番（松田中学校・寄中学校両校閉校による統合）です。私が教師として勤めた最後の学校が山北町立中学校で閉校を迎えています。山北町では３校の中学校を山北中学校に統合したことを目の当たりにしています。地域の思いは大切にしたいと考えおり、地域の心情を配慮するなら平等性から２番がいい。

　　前回の会議で二宮委員が今後の入学者数の見通しを聞いていたが、仮に入学があったとしても厳しい状況であるならば、住民に期待持たせない方がいいと思う。

杉本委員：私は保護者目線で意見する。保護者、子ども、地域の方々の意見が一番だと思う。資料を確認するとともに安藤委員、石川委員の意見を参考に２番を選択するのが良いと思う。学校へ通う子どものことを一番重視すべき点であると思う。

二宮委員：前回の会議の後、家に帰って松田中学校を卒業した主人に住民感情の部分で聞いてみました。やはり時代の流れの中でその時々のことを考え、自分たちが理解して受け入れていくことが大切である。卒業番号が１番から始まっても、今の子どもたちにとって良い方向になれば良いという考え方である。よって、２番が良い。

本山町長：二宮委員の家庭は勝手なイメージであるが、意外と理解されている感じがする。だから選択肢の中で松田中学校でなくてもと考えられた。ご理解いただけるご家庭で良かったと考えられる。

𠮷田教育長：私も２番がよい。例えば休校にした場合、いずれ開校できると、ある面期待をもたせることだが、人数が10人超したから開校、数年後10人減ったからまた統合とはいかない。休校にしても、いったん閉校して新たに再開するにしても、ある程度１クラスなり、２クラスなりできる状況で、それから10年先をみても学級編成できる生徒数の見込みがあるなら再開でなくても、新設でも校舎がほかで使ってもそこをまた使えるならそれでも良い。新たに考える方法もある。むしろいつでも再開する場合、休校なら何人いれば開校できるのか、境界線を出さなければならない。それがどこなのか、私たちは10人を割った中で中学の場合、集団的な教育活動は十分な補償はできない。この場合統合にすると指導した手前、10人になったからすぐに再開は難しい。今後の園児数や出生数からここ10年ぐらいは休校しても再開できる人数まで増えることを期待することは厳しい。卒業生としても、なんとなく閉校式なしで教育的配慮により松田中学校へ行ったままではなく、きちんと松田町に新たな中学校が、町に一つの中学校として発足するのが区切りである。きちんとした新生中学校として、できれば中学校１校に、小学校は２校から１校にかかるので、むしろ小中連携をした小中一貫校として教育目標をもって小中一緒に進むような新たな中学校として発足する期待感、新たな町の教育を作る雰囲気を醸成させるためにも新設が良い。町長も懸念していた卒業生が１番から始まることについても、松田教育委員会に松田中学校の卒業生がいるので聞いてみたが気にしないと話している。

　　　いろいろな人がいるので気にする方もいるが、新生山北中学校開校した以後、山北町の教育長や知り合いに聞いた。統合するまでは大変だったが、統合後は苦情など一切ないと聞いている。そういう面では産みの苦いみはあるが、そこで決めて新生松田町の中学校とする方が、私たちもそういう方向性で進めてきた手前もありますし、状況を考えてもこれが最良と考える。

本山町長：前回から時間をいただき、皆さんから意見をいただき教育長と話しながら、最終的には私が決定しなければならないと考える。しがらみのない自分が判断することになるが、寄の人からも話を聞いていたし、いろいろな人の意見を聞けば何とかしたいと考えてしまう。

　　　子どもたちのことを考えますと、結論から言って私は皆さんと一緒の考えであり対等な統合の方が筋は通ると思う。最初から対等な統合の方向でいった方が親御さんも安心して寄に住めるし、子どもたちも帰ってきやすい。皆さんと同じ意見で良いと思います。休校にするとどこかで開校、10年後にまた休校などと振り回すことになる。ビジョンをもって勇気ある決断をしたい。

𠮷田教育長：小学校は残したい。小学校と中学校は違う気がする、保護者も中学生ぐらいになれば登下校も含め安全安心が面でも良いし、部活があったり、活動の範囲が広くなったり、多くの生徒の中で切磋琢磨して成長するのは小学校より大きいと思う。地域に学校があって欲しいのはわかる。今10人を小学校は割っている。私は少なくても可能性を活かした幼稚園も含めた地域の個人としても残したい。

本山町長：ではそういう方向で皆さんいいですね。

𠮷田教育長：もう一ついいですか。新聞では12月１日の広報で３年以内を目途に統合しますと掲載されていた。今の２年生・３年生が卒業すると２年後になる。それで今の１年生は３人とも松田中学校へ、３年後には卒業生がいないのははっきりしています。ただ、今年度の６年生が４人おり、一人でも残るとなればその子は可動期なので、寄中学校に入れるのはいいのですが、３年後３年生が卒業すると１人でも入れる選択制でいいのか、それより私は３年以内とあるが２年以内とし、１人２人残っても先生が配置できない。今年度は、お願いして先生を配置していただいたが、仮に１人だと先生が５、６人もつくのは教科制なので状況を考えますと、２年後の平成30年度に閉校することで方向性を出してもいいのではないか、個人的な意見だが。閉校する期限について意見を伺いたい。

安藤委員：教育長の意見のとおり、授業にならない。子どものことを考えれば選択制はやめて、状況が変わったからそのまま２年後である平成30年度末に統合することで良い思う。

𠮷田教育長：生徒がいる中で最後の卒業生として閉校式もきちんとしたある程度感動的なものとなるのかと思う。この次の３年後は出てしまい状況から１人だけで閉校式になるし、10人割ると中学の教育が十分に保障されない。選択制は尊重しながらも２年後の統合を打ち出してほしい。

本山町長：石川委員は

石川委員：言葉尻になるが３年以内（平成31年度末）というものが２年、１年でもいい。ただ自分は教育長の考えでいいと思います。補足説明するなら３年以内と言っている点と、併せて早まった理由を説明すればいいと思う。中学校で一人になれば就学しないと考えると思います。小学校は一人でできるが、中学校は専門教科なので不可能であると考える。そこは問題ないかと思う。

遠藤教育課長：教科の専門性９教科と教育長は言っていましたが、技術家庭を入れると全部で10教科となる。今年度の寄中学校の状況をお話ししますと音楽と家庭科で２教科で１人の先生、数学と理科２教科で１人の先生、免許持っていて２教科を教える。また、寄中学校が統合を予定していることを考えていただき職員の「特別配当」として１人の教員を追加配当としていただいた。最後の１人をいただくのが大変であり、教育長並びに町教育委員会で早くから県西教育事務所を通して県へ状況報告するとともに、お願いを重ねてきた。

𠮷田教育長：もし１学級１人になったら定数はいくつ、また１学級が減ったら。

遠藤教育課長：県の学級編成調査では４教科の教員数が足りなかった。学級数によって先生の数が決まる。足りなかった先生の分は兼務で見ることや、教科外申請をすることとなる。

杉本委員：通学の面で心配する。私だったら子ども一人なら説得することになると考える。

二宮委員：その一人になる可能性は、行きたい子はいるのか

𠮷田教育長：昨年度のアンケート調査では１人希望している子どもがいた。

二宮委員：一度お話ししてあげたらいいのでは。

𠮷田教育長：早めに意向調査をとってお知らせすることができる。方向性が決まれば。12月の広報ではできないが、ある一定の方向性を出していただければできる。

本山町長：皆さんその方向でいかがですか。３年以内に教育長にしてもらった。こんなことを予測していた。私もどのタイミングで発表するのかはあるけど２年で発表するつもりはある。また卒業式と閉校式は違う。先に卒業式をやってあとに閉校式を行う。年度が終わってやるべきである。

𠮷田教育長：私が考えるのは、中学の卒業式３月10日、学校の終了は３月25日になるので修了式のあとで閉校式を行う。それ以降だと親子で休みの予定、進学などの準備もあるのでその日がいいと思う。資料に記載してある点線は３年以内の場合（予定）である。閉校式はその学校が中心にやるべきで、先生の意見やこの前の検討会議の中では閉校式を３年と予定して２年後に閉校式はとてもできない。２年後に閉校式をやることができるよう準備を進めてほしいと検討会議の皆さんにお話ししました。制服やその他の部分で準備はすることとした。

本山町長：そういうことであれば、我々の中で総合教育会議の中で決定し、その方向性で決まれば、我々は町民への説明責任、議会の方々への報告をしなくてはいけない。

吉田教育長：丁寧に説明しなくてはいけない。執行権は町だが、予算を認めてもらわなければならない。明日のＰＴＡ総会の時には、期間はまだ話さない。また、統合の仕方はどうですか。

本山町長：この総合会議の中で決めましたとなれば、正式な会議なのでその方向で統合されますと話すのはいいのではないか。

𠮷田教育長：議員にはまだ統合方法は説明していない。今この総合教育会議で決まったことだから、これから議会で説明しなければならない。また、広報にも出さなければいけないと考える。

本山町長：５月９日議会全員協議会で議員にお話しする機会はあります。

𠮷田教育長：そこでの説明が終わってからにしましょう。

本山町長：お子さんや保護者の皆さんの意識はどうなのか。次回の検討会議はいつですか。

𠮷田教育長：４月中には検討会議を持ちます。

遠藤教育課長：４月中下旬のＰＴＡ総会で役員も決まる。今後、日程を調整して、できれば４月下旬または、５月初旬に開催したいと考えている。

𠮷田教育長：今日のお話のようなことは、前回の検討会議の冒頭で話してはいますが、公の場では話していません。最終的に総合教育会議の中でこの方向で決まりましたと、次回の検討会議で話してもいいでしょうか。２年後の統合に向けて準備を進めてほしいと伝えていいでしょうか。

本山町長：はい。

𠮷田教育長：そのまま校歌を使う。新に作ると何年もかかるし、莫大な費用も掛かる。 校歌、校旗、そうしたものについては松田中学校のものをそのまま使う。ここで改めて皆さんに確認していただければ、その方向で話すことができる。

本山町長：検討会議に出られている方々にがっかりさせないように、結果的にその方向で決まったと伝え、９日に議会で検討会議と総合会議で決まったと伝える。

𠮷田教育長：校歌、校旗など学校の歴史となるものは、新生松田中学校のもとで松田中学校のものときちんと一緒に保管する。場合によっては、石川委員が、子どもたちの思い入れのあるものはどこかに保管する。

本山町長：備品関係はしっかり残す。

𠮷田教育長：地域の思い入れがある。卒業生の思いもあり大切にしなければならない。

本山町長：事務局へ確認です。３つの部会は教育委員会の裁量で動いて良いですが、残された学校について財産処分の話として、行政財産をどうできるか早急に動きます。学校があるおかげで地方交付税が８００万円交付されたが、交付税が交付されなくなり、バスを購入することでいくらかでるか整理して欲しい。例えばグラウンドや入口は共有で、空いたところからいろいろな人が入ってくるが、犯罪防止のため警備員１人いるが不足なのか、必要ないのかわからない。

本山町長：事件があったから置くのは当たり前なのは町の事情、やってもいないのに人を付けて、その分の費用で監視カメラを付けたいなど、地元の雇用の面ではいいが、整理しなければいけない。民間になれば人がやたらと入ってくるので対応も必要だし、こういうのに使いたいなどの要望もあり、聞き取りもしなければいけない。これは政策推進課がやるのだが、教育の施設と比べてどうなのか、学校の貴重品などをしまう場所を必要となるのでその部分は残すのか。ただ開けているだけでは住民に何に使うのか聞かれる。地元の雇用につなげるのが一番でそれに使いたい。遊び場になるのはお金にならないので困る。寄に必要なのは雇用で、仕事がないから外に出てしまう。教育長の意見のとおり残った幼稚園、小学校をどう中学校につなげていくか、具体的にやる。５年前のように検討して、なんで答えを出して外に伝えなかったのか、言ったことを何もしないと言われた。聞いていて、何を考えているのかと不思議に思う。やらないならやらないではっきり勇気をもっていう必要がある。大井町の例（小規模特認校）をもってやったけどやれなかったということもある。町は何も過程や物語がないから怒られる。もう少しスムーズ進めていれば子どもたちに苦労を掛けず、家族も出なくて済んだかもしれない。もっと早くできたかもしれない。行政の責任でもある。先回りしての対応が必要である。

𠮷田教育長：寄で小規模校を生かして学校はやっていたけど、議員さんからは何もやってないと言われた。それ以降、学校だよりを保護者だけでなく地域へ回覧して周知している。学校側も子どもを地域に出す、情報を外に出すなど不足していた部分がある。目で足で地域を見る、子どもたちは先生以外にもたくさん学ぶことがある。これからはそんなことが求められる。

本山町長：小中学校の学校だよりは、ホームページで出しているか。

遠藤教育課長：出していません。

本山町長：出さなければならない。松田地区の人は寄小中学校のことがわからない。定住移住する人はその部分を見ている。学校や町の姿勢を見ている。ホームページ新しくしたが魂が入ってない。

𠮷田教育長：学校のホームページはないか。

遠藤教育課長：学校ではホームページを開設していません。

本山町長：本来ならタイムリーに外に向けた情報提供をするため、学校行事等を出してもらえないだろうか。バーナーの中で政策と相談して作ってもらう。寺子屋のコーナーはありましたか。教育の大綱とかホームページで見られれば、役場の情報がわかるようにしてほしい。ＡＬＴ（外国語指導助手）のタイスさんにやってもらえばいい、できると思うから。ＡＬＴ（外国語指導助手）として追加した先生です。

𠮷田教育長：町が委託している業者は、は学校のホームページ開設はできないのか。

本山町長：できるけど費用が掛かる。例えば学校のホームページはやらないのか。ＩＣＴ（情報通信技術）授業で撮った写真を即ホームページに載せる。とにかくやっていることが見られるように。アカウントが必要なので相談を。

𠮷田教育長：転入したい親はたいていホームページをみる。それがわかる宮根係長検討（アカウント））してください。

二宮委員：町ホームページはわかりにくいし、使い方わからない。

𠮷田教育長：パッと見られるようにしたい。次々に引っ張り出せるように。月に最低１回は更新できるようにする必要があると思う。

本山町長：町内のお互いの情報を収集して発信できるようにしていきましょう。

二宮委員：わからないことが不安、親も子どもも。

𠮷田教育長：ある程度話は済んだけど、課長、他に協議しておくものはありますか。

遠藤教育課長：検討委員会では、記念誌がどのくらい、閉校式がどのくらいの規模ですなど、わかればスムーズに進むと思う。

𠮷田教育長：この会議では、議議論しなくてともいいのではないか。いずれにしても閉校になれば、これまでのものをまとめたものを記念誌として残してくのは、卒業生にも必要である。それは作る必要がある。

本山町長：一つの記念誌に両方の閉校式のものを載せるのか。それとも別か。

遠藤課長：三保中学校と清水中学校は、それぞれ閉校式を行った。

本山町長：そういったものも議論してもらって、全部の卒業生に配るのか。

𠮷田教育長：全戸配布した。卒業生、兄弟姉妹がいたりするので家庭数で配布した。

本山町長：そういうのをしっかり決めてください。歴史の締めですしね。

𠮷田教育長：山北町では高額の予算をかけたとか、全部町の予算なのか。地域の人から寄付をいただいたと聞いた。

遠藤教育課長：山北町の資料など他市町へ確認して相談します。

本山町長：子どもと保護者のことを一番に考え、完璧はない、先に決めなければいけないと思う。ほかに意見がなければこれで閉会してよいでしょうか。

委員：全員了承